

BusiNest 冬の過ごし方は、撮影会でお澄まし顔。豆まきにバレンタインデーとイベントづくし！

ビジネストは冬も熱い！ みなさまにお役に立つ企画をお届けします！
写真の撮影は思った以上の盛り上がり。はたまた福を呼ぶ行事も怠りません。楽しく盛り上がって参りましょう！

プロカメラマンによる写真撮影会！



2月9日、10日、小林デザインコーチの古くからの仕事仲間であるカメラマン、佐々木強さんによるプロフィール用写真撮影会を行いました。Facebook など SNS で自身のプロフィール写真を掲載する場面も多くなり、「プロの写真を」とのリクエストに応え企画しました。当初は女性を中心に数名集まればと弱気の見積でしたが、ふたを開けると2日間で18名の会員、スタッフが参加。大盛況の内に終了しました。

(吉田/記)

フラワーバレンタイン&節分

《フラワーバレンタイン》

BusiNest 会員のインパック株式会社様が主催する「バレンタインの花贈りイベント」が2月5日(金)に中小企業大学校東京校の講堂で開かれました。欧米ではバレンタインデーに男性から女性に花を贈ることがポピュラーだそうです。イベントでは、東大和市長のご挨拶、日本フローラルマーケティング協会の野口様のご講演に続き、ご夫婦やカップルでいらしたお客様に男性から女性へ花束を贈っていただきました。もちろん BusiNest でも男性スタッフから女性スタッフに日ごろの感謝を込めて花束をプレゼント。みんなが優しい気持ちになれるいいイベントでした。

(馬込記)



市長からバレンタインの花贈り

《節分》

2月3日の屋下がり、会員様との面談の終え席に戻ると、私の机に鬼のお面が。おや?と考えていると「早くして!」と言われるままにお面をかぶる。輪ゴムが小さくて耳が痛い。Fチーフマネジャーから「はい、これ金棒のかわりね」とスクーリンのスタンドを手渡される。いつの間にかスタッフを囲み、「おには一そと!ふくはうち!」と豆が飛んでくる。そのさなか、Kデザインコーチから「日ごろの恨みー!」と剛速豆が……。そして鬼は退散。

BusiNest は、邪気を払って福を呼び込んだのでした。めでたしめでたし。

(M記)



会員さまの“つぶやき”

グループ交 (代表 橋本 智保子 / はしもと ちほこ)



BusiNest 会員の橋本と申します。BusiNest では馬込コーチにお世話になって

私は2000年より立川でホームページの作成やレンタルサーバなどのIT事業と音楽イベントなどを行う会社を友人と立ち上げ、2005年くらいに東大和市に移転しました。地域のお客様にお世話になりながら、新たに福祉事業(障害者就労支援)を2009年よりはじめ、現在に至っております。また、音楽イベントやチラシやポスターを作成する仕事をするなかで、地域のおまつりやイベントなどにも関わってきました。

これらの経験を活かしながら更に新しい事業(非営利活動法人)を立ち上げようと思い、BusiNest に入会させていただきました。障害者就労支援事業をするなかでグループホームの必要性を強く感じており、事業開始まで道のりは長いですが、進めております。また、地域のいろいろな方が楽しく暮らしやすい街にしていきたいと思い、おまつりやイベントを企画しております。異文化交流も念頭におき、今年のオリンピック開催地ブラジルの文化を知るために、サンバチーム(まずは音楽隊)を作り、練習をしております。何度か舞台で発表も行いました。また、今年5月7日(土)午後にはハミングホールで「落語&ボサノバジョイントライブ」を開きます。日本の文化である落語、そしてブラジルの音楽であるボサノバを知り、地域の方と楽しむ、そんな機会にできればと思っています。

営利目的ではないといっても組織として運営をしていかなければならないので、そのあたりの課題はありますが、安心して楽しく暮らせる街となるよう、地域の方々と一緒に、地域活性のために、BusiNest という場所や環境を活用させていただきながら、活動していきたいと思っています。今後もどうぞよろしくお願いいたします。 橋本 智保子



BusiNest スタッフ紹介

CLOSE-UP

溝口 暁美

Mizoguchi Akemi



自己紹介

こんにちは ビジネスト女性創業コーチ 溝口 暁美です。

私は2003年2月、ビジネスに参加する“女性”のためのコンサルティングを軸にした Office Aube を立ち上げ、今年でコンサルタント13年のキャリアを積んでくることとなりました。しかし、当時のことを正直に言うと、コンサルタントとして独立を目指していたわけではなかった上に、独立を決意して実行するまでは3か月という短期間で、かなり大胆なキャリアチェンジがありました。

仕事へのキャリアのスタートを大学時代と考える方が多いと思いますが、大学で専攻したのは小学校教員養成課程 美術専攻という、コンサルティングとは全く関係のなさそうなお仕事でした。更に、専門を生かす先は当然「小学校の先生」であるはずだったにもかかわらず、就職したのは創業間もない社員50人程度の金融系コンピュータソフト開発会社でした。当時は売り手市場だったという時代背景もありましたが、夢であった小学校の先生にならないのであれば、最先端の業界に挑戦してみたいという「新しもの好き」な性格と、絵を描いたり、造形したりという「創造的」なことよりも、意外と「論理的」なことが得意であったことが選択の理由で、SEとしての

採用でした。プログラミングは入社してからの研修で勉強しました。

研修が終わって実務に少しずつ慣れてきたころ、経営企画部に異動となり、開発の現場から一転し、事業計画作成や市場・競合調査、予算作成などに携わることになりました。ここで、ようやく現在の仕事に関わりのありそうな経験を積むことになったわけです。経営に関する知識だけでなく、仕事のルール、考え方などこの時期の経験は本当に役に立つことばかりで今でも感謝しています。数年間の経営企画での仕事の後、転職し、外資系教育サービス会社の経理部で働くことになりました。小さなソフト開発会社とは異なる雰囲気、異なる企業文化での仕事にワクワクしました。忙しい時期もありましたが、基本的には毎日の伝票処理が主体の業務で、初めは定時に帰れることを楽しんでいました。次第に「新しもの好き」としてはルーチンワークに飽きてきます。仕事のうえでも、プライベートな時間を使うことでも、何かチャレンジしたいと考えていた時に、「中小企業診断士」という資格が目に留まりました。

何かが変わり始めると、それを後押しするような出会いがあるものです。中小企業診断士の資格取得のための学校がいくつかありましたが、私が通ったのは全く知名度のない、コンサルティング会社が企画した受験講座でした。日経新聞に載った小さな小さな記事で知りましたが、いまだによくあれが見つかったなあ自分でも驚くような出会いでした。それが現在の仕事への太いパイプの入り口であったことは、当時は全く気付いていませんでしたが、この記事のおかげで中小企業診断士へのチャレンジが、現実的になりました。

そのコンサルティング会社の受験講座に通ううちに、再度転職しそこで働くようになりました。

コンサルタントとしての仕事もさせていただきながら、受験勉強を続け、人並みか1年くらい多めの受験期間を経て2002年の終わりごろ、合格通知が届きました。実は、独立することを決めたときにはまだ資格は確定していなかったのです。それでも独立を決断した理由は、コンサルティングへの思いとか、理想だとか、そんなものではなく、ただその会社での仕事に限界を感じたからだったのです。そんなわがままな理由ではありましたが、その会社の理解と暖かい支援のおかげで2003年2月からオフィスを構えることになりました。



コンサルタントとして何をを目指すのか、独立当時に考え絞出したのが『ビジネスに参加する“女性”のためのコンサルティング』という言葉だったのですが、いつの間にかその言葉に添うように仕事を選択されてゆき、ノウハウが蓄積し、今では「女性のための開業支援」を専門にしているという実感を得るようになりました。そして、大学で志し学んだ『教育』という分野や、就職した会社で体験することのできたそれぞれの業務が、一つとして無駄ではなく今の自分を形作り、仕事に生かされていることに満足しています。

考えてみれば、これまでで、最も長く続いているのはOffice Aubeとしてのキャリアなのですが、これからも、今やっている仕事は次の仕事の糧になることは変わらないと信じ、Office Aubeとしてのキャリアチェンジ、キャリアアップに備えていきたいと思っています。 溝口 暁美